軽海横穴群

－主要地方道金沢小松線いしかわ広域交流幹線軸道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2005.3

石川県小松市教育委員会

例　言

1．本書は、主要地方金沢小松線いしかわ広域交流幹線軸道路整備工事に伴って、実施した軽海横穴群の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．発掘調査及び出土品整理作業は、小松市教育委員会が主体となって実施した。
3．調査、発掘調査、出土品整理作業、報告書作成に係る経費は石川県が負担した。
4．発掘調査の調査地、調査面積、調査期間、調査担当者は次のとおりである。

《調査地》　石川県小松市軽海町地内
《調査期間》　発掘調査　平成15年10月1日～11月14日
《調査面積》　２５０㎡
《調査担当》　発掘調査　西田由美子

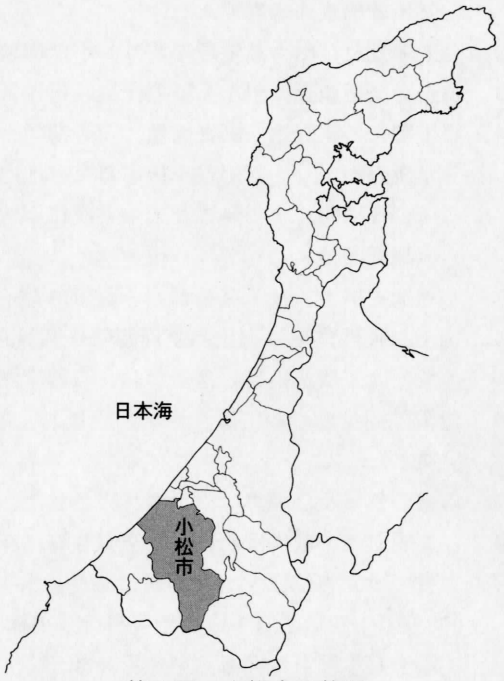
5．出土品整理作業は出土品整理臨時作業員を雇用し、遺物実測・製図・報告書作成は、望月精司の指導・教示のもとに下濱が担当した。なお、石器実測は宮田　明が行った。
6．遺構の測量については、西田が実施し、航空測量及び遺構のエレベーション図に関しては、㈱太陽測地社が実施した。
7．本書の執筆及び編集は、下濱が担当した。
8．写真撮影は、遺構は西田が、空中写真は㈱太陽測地社が、遺物は下濱が行った。
9．本書で示す方位はすべて真北であり、水平基準は海抜高（m）で示した。なお、第１図は国土地理院発行25,000分の１地形図（平成９年度発行「小松・美川・粟生・別宮」）を使用し、第２図には小松市発行2,500分の１国土基本図「西軽海」を使用した。
10．本調査において出土した遺物を含め、遺構・遺物の実測図、写真等の資料は、小松市教育委員会が保管している。

第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

1．地理的環境

小松市は石川県西南部に位置し、市内は地形的に東南部丘陵・山岳地帯と西北部の沖積平野部に二分される。前者は能美江沼丘陵の一部をなす小松東部丘陵、能美山地・大日火山地などからなり、後者は加賀平野の一部をなす小松江沼平野よりなる。後者はさらに北部の梯川流域、南部の加賀三湖と称される今江潟、柴山潟、木場潟周辺の低湿地に概ね二分でき、日本海に面して小松砂丘が発達している。

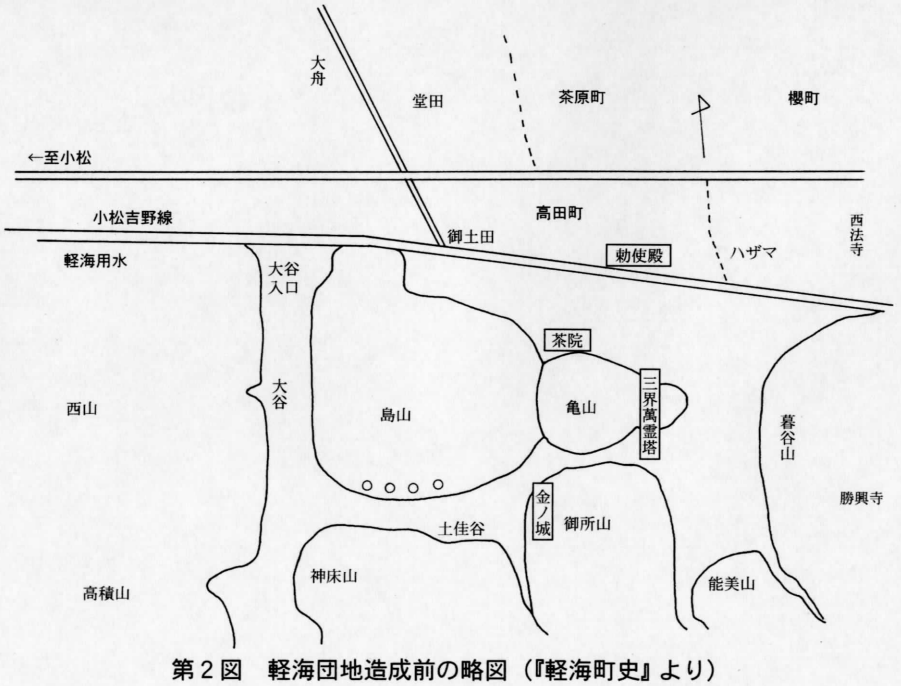
梯川本流は大杉町の槍ヶ岳に端を発して北に流れ、その流路には大杉・赤瀬・打木・瀬領・波佐谷の各町が点在する。金野町で郷谷川と合流し、あきらかな河岸段丘を形成しながら、正連寺・軽海の各町に至り、軽海町で滓上川と合流する。軽海町からその進路を北にとった梯川は、屈曲と共に流速を急に落とし、小松の街地をかすめ安宅河口で日本海に注ぐ。遺跡は、梯川が支流の梓上(かすかみ)川を合わせて大きく湾曲する中流左岸、沖積平野がひろがる南側の丘陵斜面に位置する。



第１図　小松市の位置

2．周辺の遺跡

旧石器時代に属する遺跡は、八里向山遺跡群（51）河田山古墳群（73）がみられるのみで、ほとんど発見されていない。縄文時代に属する遺跡は、詳細がわかるものはほとんど平野部であり、代表的なものとして軽海西芳寺遺跡（05）と中海遺跡（89）がある。軽海西芳寺遺跡は、梯川中流左岸部軽海周辺としてはもっとも古く、縄文時代中期に位置づけられ、石組炉をもつ竪穴住居1棟、多数の土坑がみつかっている。縄文晩期～弥生時代中期に属する遺跡は、牛島ウハシ遺跡（45）・大長野Ａ遺跡（39）千代（千代オオキダ）遺跡（37）ぐらいで、梯川中流右岸域の平野部のみにみられる。弥生時代後期以降、梯川両岸域で遺跡は大きく展開しはじめる。平野部には、漆町遺跡群、千代オオキダ遺跡、軽海西芳寺遺跡、佐々木ノテウラ遺跡（19）がみられ、丘陵縁辺部では、八里向山Ａ・Ｃ・Ｄ遺跡、河田山遺跡（73）がみられる。古墳時代前期にはいると、平野部は弥生後期以降継続して続く遺跡に加え、千代能美遺跡（34）、古府しのまち遺跡（36）、荒木田遺跡（09）佐々木アサバタケ遺跡（20）などの集落遺跡が加わる。また軽海町地内には、通称「ガメ山」と呼ばれる小丘があり、今は消滅してしまった亀山玉造遺跡（06）がある。昭和46年には軽海団地造成工事に伴うもので、古墳時代前期の住居跡数棟が確認され、出土遺物のなかには、玉作関連遺物、山陰系甑がみつかっている。古墳は能美丘陵縁辺部に展開する。いわゆる能美古墳群である。古墳は、河田山古墳群、八里向山Ｃ・Ｄ遺跡、埴田後山明神・無常堂古墳（71）、ブッショウジヤマ古墳群（85）、埴田山古墳群（72）、八幡古墳群があげられ、



第２図　軽海団地造成前の略図（『軽海町史』より）

各期にわたりほぼ継続的に築造されている。にも関わらず、平野部においては５世紀併行の建物がみつかっている遺跡は荒木田遺跡のみで6、７世紀代にかけても同様に遺構・遺物が減少している。奈良時代に入ると、軽海西芳寺遺跡、千代オオキダ遺跡、佐々木遺跡（18）、古府しのまち遺跡、佐々木ノテウラ遺跡など、平野部の弥生時代後期に存した遺跡と重複した箇所に分布する。

加賀が独立した国として立国するのは弘仁十四年（823）で、越前国から加賀郡と能美郡が分割される。軽海は加賀国能美郡の所属となり、10世紀前半に編纂された『和妙類聚抄』には、能美郡に軽海・能身・山上・山下・兎橋の五郷が存在したことが記されている。軽海郷は、軽海町を遺称地とし、その範囲は梯川上流域山間部と支流の仏大寺川下流域、滓上川流域を含む地域をいう。荒木田町、光陽町、軽海町にまたがる荒木田遺跡は、8世紀後半～9世紀前半頃にピークをもち、多数の掘立柱建物跡、水場遺構、遺物では、墨書土器、円面硯、帯金具、石帯などが出土している。一方、梯川の右岸に立地する古府台地は、従来から加賀国府の所在地として推定されおり、古府遺跡（28）、古府フドンド遺跡（29）、十九堂山遺跡（26）といった平安時代の遺跡が存在し、軒丸瓦・軒平瓦などが出土している。また、軽海町東側に位置する佐々木遺跡では整然と配置された建物跡、「野身郷」「財部寺」と書かれた墨書がみつかっており、野身郷の管理にかかる公的施設もしくは有力者の居宅の可能性が考えられ、当該期の状況が少しずつ近年の発掘調査の成果において解明しつつある。平安時代後期には、白山宮加賀馬場中宮の末寺である中宮八院（護国寺、昌隆寺、松谷寺、蓮華寺、善興寺、長寛寺、隆明寺、湧泉寺）が成立するが、『白山之記』によると八院のうち隆明寺を除く七ヶ寺が能美郡軽海郷に所在したと記されている。
中世の軽海郷は、古代の郷城を継承し、嘉暦四年（1329）には武蔵国金沢称明寺の所領となる。以後、鎌倉幕府の滅亡によって称明寺は軽海郷を含む寺領を一部没収され、領地境の問題などで白山宮との対立抗争はあるが、称明寺が康暦二年（1380）までの約50年間支配している。

ここから中世墓に話を展開しよう。第４図は当遺跡周辺の中世墓及び横穴の分布である 。軽海周辺では、中世墓として確認されているものは、集石墓、横穴墓である。第２表の中で墳墓に分類しているものの中で調査が実施されているものは、八里向山Ｆ・Ｈ遺跡、軽海中世墓群の２遺跡のみである。当遺跡の東側に位置する軽海中世墓群（02）は上下2段が確認され、配石墓・計11基が1971年の発掘調査で確認されている。出土遺物は、蔵骨器である加賀古陶壷と珠洲焼であり、五輪塔が少なくとも11基造立されていたことがわかっている。時期は14世紀～15世紀前半と考えている。なお、この地は、第３図の墓谷山と現在でも地名にあり、当時墓域であったことを示しているようである。八里向山Ｆ・Ｈ遺跡では、集石墓多数、横穴３基がみつかっている。横穴の時期は不詳で、Ｆ１号墳の斜面にいずれも作られている。集石墓は、Ｆ遺跡は13世紀前半～中頃、Ｈ遺跡は13世紀後半～14世紀代と報告されている 。この事例は現在みつかっているこの地域の墓としてはもっとも古いものと思われる。その他、十九堂山中世墓跡、湧泉寺経塚、長寛寺中世墓跡、麦口中世墓跡は、五輪塔等の発見はみられるものもあるが詳細は不明である。横穴は、地図内の分布だけで35件ある。しかし、実際のところ、調査をしなければ、古墳なのか中世なのかもしくは近・現代の掘り込みなのか詳細はわからないものと思われる。その中で地下式壙といわれるものは３遺跡（下八里横穴群（58）・河田横穴（61）・津波倉ホットジ遺跡（102）である。加賀では、15世紀中頃に地下式壙といわれる特異な遺構が構築されており 、小松市の調査事例としては、津波倉ホットジ遺跡（102）で６基確認されている。特徴としては、地表面から垂直に降りる竪坑があり、そこから水平に室状の横穴が設けられているものである。性格としては、僧侶の修行窟・入定窟という考え方もできるらしい。

註

1 この表は、宮田明氏がまとめた遺跡地図作成リスト（2004年作成）から転載したものである。

2 小松市教育委員会　2004　『八里向山遺跡群』

3 田嶋正和　1997　「第２章　第６節　遺構からみた加賀国」『中・近世の北陸』北陸中世土器研究会

引用・参考文献

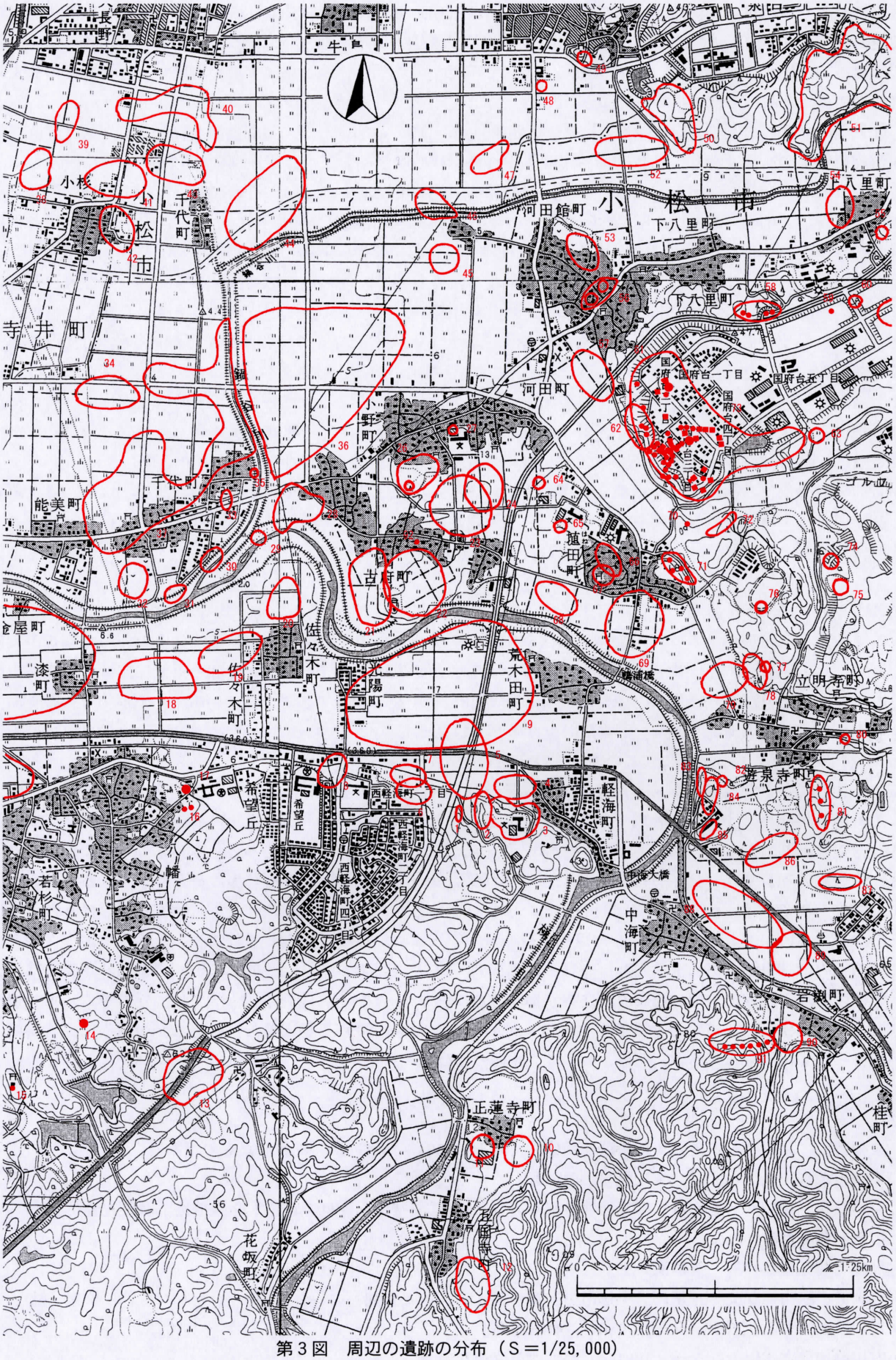
・飛鳥　興三松　1981　『軽海町史』

・石川県小松市　2002　『新修　小松市史』資料編４　国府と荘園

・石川県立埋蔵文化財センター　1986　『軽海遺跡』

・石川県埋蔵文化財センター　1994　『軽海西芳寺遺跡』

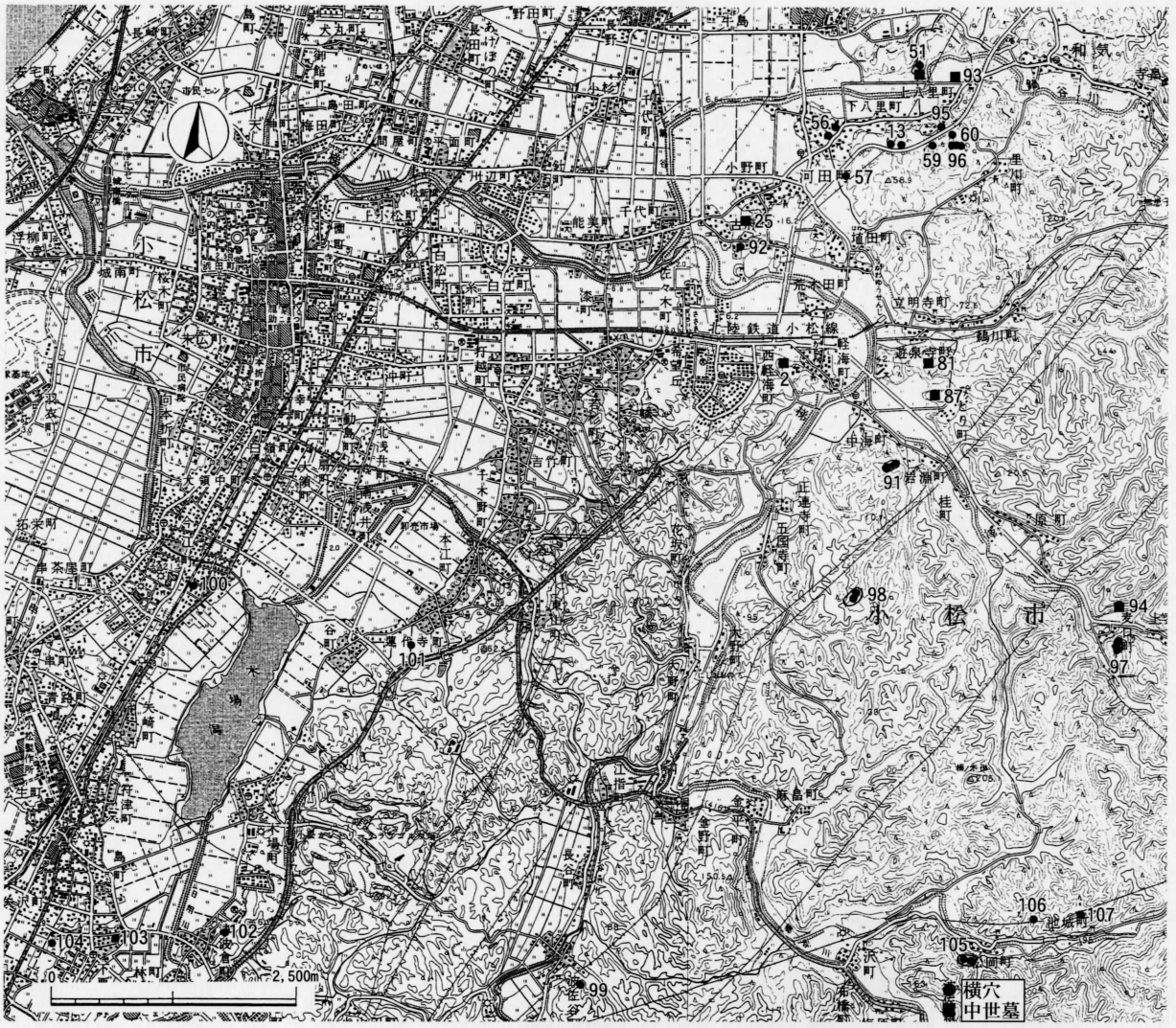
・小松市教育委員会　1973　『軽海中世墓址群－発掘調査概報－』



第３図　周辺の遺跡の分布（Ｓ＝1/25,000）

番号	遺跡番号	遺　跡　名	時　　代
01		(軽海横穴群)	
02	3240	軽海中世墓群	鎌倉末期～室町
03	3241	軽海廃寺	平安後期
04	3239	西芳寺遺跡	平安・中世
05	3235	軽海西芳寺遺跡	縄文中期～中世
06	3238	亀山玉造遺跡	古墳前期
07	3237	軽海遺跡	弥生～近世
08	3236	大谷口遺跡	弥生後期
09	3234	荒木田遺跡	古墳～中世
10	3281	護国寺跡	平安末期
11	3282	椎の木山遺跡	縄文
12	3283	松谷寺跡	不詳
13	3185	浄水寺跡	古墳・平安・中世
14	3184	若杉オソボ山1号窯跡	古墳後期
15	3187	釜谷古墳	古墳
16	3182	八幡行者塚古墳	古墳
17	3181	八幡大塚古墳	古墳
18	3176	佐々木遺跡	弥生～中世
19	3172	佐々木ノテウラ遺跡	弥生～中世
20	3173	佐々木アサバタケ遺跡	弥生～中世
21	3220	古府シマ遺跡	平安・中世
22	3222	南野台遺跡	縄文中期・古墳
23	3219	小野遺跡	平安
24	3218	小野スギノキ遺跡	平安・中世
25	3217	十九堂山中世墓群	中世
26	3216	十九堂山遺跡	平安・中世
27	3215	小野窯跡	江戸
28	3169	古府遺跡	平安中期
29	3170	フドンド遺跡	平安
30	3171	横地遺跡	縄文
31	3174	千代本村遺跡	古墳
32	3175	千代マエダ遺跡	古墳～平安
33	3168	千代城跡	室町
34	3164	千代能美遺跡	弥生～中世
35	3167	小野町遺跡	古墳
36	3166	古府しのまち遺跡	古墳前期～平安
37	3165	千代オオキダ遺跡	弥生後期～中世
38	11001	大長野A 遺跡	弥生・中世
39	11002	大長野B 遺跡	不詳
40	11003	牛島宮の島遺跡	平安
41	11004	千代デジロA 遺跡	弥生
42	11005	千代デジロB 遺跡	弥生
43	11006	千代デジロC 遺跡	古墳・平安
44	11007	牛島ウハシ遺跡	古墳前期・奈良・平安
45	3307	下出地割遺跡	
46	11026	佐野A 遺跡	弥生
47	11025	佐野八反田遺跡	奈良・平安
48		佐野B 遺跡	
49	11024	狭野神社前遺跡	平安
50	3310	向山古墳群	古墳
51	3311	八里向山遺跡群	旧石器～中世
52	3309	河田向山下遺跡	縄文・平安
53	3308	河田館遺跡	縄文中期～中世
54	3313	上八里A 遺跡	縄文・平安
55	3314	上八里2号窯跡	不詳
56	3223	谷内横穴	古墳
57	3224	河田C 遺跡	不詳
58	3245	下八里横穴群	中世
59	3246	穴場横穴	古墳
60	3247	上八里C 遺跡	奈良
61	3251	河田横穴	不詳
62	3225	河田B 遺跡	奈良
63	3227	河田山窯跡	不詳
64	3228	埴田ミヤケノ遺跡	不詳
65	3229	埴田ミヤンタン遺跡	不詳
66	3230	宮谷寺屋敷遺跡	縄文・室町
67	3231	埴田フルカワ遺跡	古墳
68	3232	埴田ウラムキ遺跡	平安・中世
69	3233	埴田遺跡	奈良・平安
70	3243	御菩提所古墳	古墳
71	3242	埴田後山明神1～3号墳・無常堂古墳	古墳
72	3244	埴田山1・2号墳	古墳
73	3226	河田山古墳群	弥生後期～古墳後期
74	3257	里川F 遺跡	平安
75	3256	里川E 遺跡	平安
76	3259	埴田塚	中世
77	3260	隆明寺跡	平安初期
78	3262	遊泉寺跡・クボタB 遺跡	平安～中世
79	3261	遊泉寺跡・クボタA 遺跡	平安～中世
80	3266	湧泉寺跡	平安初期
81	3267	宮の奥1～3号経塚	平安～鎌倉
82	3269	仏生寺塚	中世
83	3268	遊泉寺遺跡	縄文
84	3270	仏生寺跡	中世
85	3271	ブッショウジ ヤマ古墳群	古墳
86	3274	中海C 遺跡	平安～中世
87	3275	長寛寺中世墓跡	室町
88	3273	中海B 遺跡	古墳～中世
89	3272	中海遺跡	縄文中期
90	3278	赤穂谷口遺跡	縄文
91	3279	松の木谷横穴群	古墳
92	3221	古府横穴	不詳

第１表　周辺の遺跡



第４図　中世墓及び横穴の分布（Ｓ＝1/75,000）

番号	遺跡名	町名	通称	現状	立地			時代	出土遺物	備考
51	八里向山Ｈ遺跡	八里台	向山	宅地	丘陵	裾	墳墓	13c後半～14c	蔵骨器（弥生土器利用、珠洲、加賀、越前、瀬戸）、土師器皿、鉄槍、小刀、渡来銭、五輪塔・宝塔残欠	1997年、96基調査。他は現状保存
93	上八里中世墓跡群	上八里町		水田・畑地	丘陵	裾	墳墓	中世・室町	五輪塔残欠	
25	十九堂山中世墓跡群	古府町	ジクドウヤマ	墓地	台地		墳墓		五輪塔、宝篋印塔、瓷器系炻器	石塔類は、墓地北側に固めて置いてある。南側の墓地内に土の緩い地点があるが、中世墓との関係は不明。
81	宮の奥2号墓(湧泉寺経塚)	遊泉寺町	宮の奥	山林	丘陵	頂部	墳墓	平安または鎌倉	須恵器、土師器、梅花飛鳥鏡、平板状鉄器	小松高地歴クラブ調査。円墳状；径7m；高さ0.67m、組合式石室状遺構、全面に葺石あり、旧表土上に石室を設え封土、盗掘により損壊
87	長寛寺中世墓跡	中海町		畑地	丘陵	裾	墳墓	中世	五輪塔	
2	軽海中世墓跡群	軽海町	墓谷	山林	丘陵	斜面	墳墓	14c～15c前半	土師器皿、珠洲、加賀、青磁、五輪塔	1971年、11基市調査。
94	麦口中世墓跡	麦口町		社地	丘陵	裾	墳墓	中世	五輪塔	

番号	遺跡名	町名	通称	現状	立地			時代	出土遺物	備考
51	八里向山F遺跡	八里台	向山	宅地	丘陵		横穴墓	中世		
	1号横穴	八里台	向山	宅地	丘陵	尾根	横穴墓	中世		
	2号横穴	八里台	向山	宅地	丘陵	尾根	横穴墓	中世		
	3号横穴	八里台	向山	宅地	丘陵	尾根	横穴墓	中世		1号墳に重複
95	下八里横穴群C地点	下八里町		道路	丘陵	斜面	横穴墓	不詳		横穴1基
60	上八里C遺跡(上八里B地区横穴墓群)	国府台		工業団地	丘陵	斜面	横穴墓	7c	須恵器	横穴古墳2基
96	上八里横穴群(上八里C地区中世横穴状遺構群)	国府台	サンマイダニ	工業団地	丘陵	斜面	横穴墓	16c前半	中国製陶磁器、瀬戸美濃、越前、鉄製品、銅製品	横穴11基、井戸跡1基
59	穴場横穴群	国府台	アナバ	工業団地	丘陵	斜面	横穴墓	不詳		横穴2基、法面工事で埋没
58	下八里横穴群A地点	下八里町		道路	丘陵	斜面	横穴墓	中世		地下式坑4基
	下八里横穴群B地点	下八里町		道路	丘陵	斜面	横穴墓	不詳		地下式坑2基、不明土坑1基
	1号坑	下八里町		道路	丘陵	斜面	横穴・地下式土坑	不詳		
	2号坑	下八里町		道路	丘陵	斜面	横穴・地下式土坑	不詳		
56	谷内横穴	河田町		宅地	台地	斜面	横穴墓	不詳		奥行2.3m；幅2.0m；高さ1.8m、1937年頃、宅地裏を切土した際、断面に1基開口、玄室奥に敷石が認められたとされる。その後、玄室左右に横穴を掘り足して、食糧貯蔵に利用したという。
57	河田横穴	国府台	河田山	宅地	丘陵	斜面	横穴・地下式土坑	不詳		河田山54号墳南側に隣接して縦坑が開口。調査前まで周知されていた「河田横穴」は、発掘調査では発見されず。
92	古府横穴	古府町	ニカヤマ	畑地	台地	斜面	横穴墓	不詳		消滅
91	松の木谷横穴群	中海町	松の木谷	山林		河岸段丘	横穴墓	不詳		横穴6基並列、谷に東面して5基開口、1基は1896年土砂崩れで埋没 能美郡誌)、現況不明
97	下麦口横穴群	麦口町		山林	丘陵	斜面	横穴墓	不詳		丘陵上畑地奥の斜面に横穴3基並列、ほかに未確認が2基程度
	1号横穴	麦口町		山林	丘陵	斜面	横穴墓			
	2号横穴	麦口町		山林	丘陵	斜面	横穴墓			
	3号横穴	麦口町		山林	丘陵	斜面	横穴墓			
98	赤穂谷スギノキ谷横穴群	中海町	スギノキ谷	山林	丘陵	斜面	横穴墓	不詳		赤穂谷(赤尾谷)最奥部の通称スギノキ谷に横穴9基、地下式坑4基(中海町史)
99	火灯山横穴群	松岡町	ヒトモシヤマ	山林	丘陵	斜面	横穴墓	不詳		横穴3基開口
	松岡1号横穴	松岡町	ヒトモシヤマ	山林	丘陵	斜面	横穴墓			
	松岡2号横穴	松岡町	ヒトモシヤマ	山林	丘陵	斜面	横穴墓			
	松岡3号横穴	松岡町	ヒトモシヤマ	山林	丘陵	斜面	横穴墓			
100	今江横穴群	今江町	ムジナノウロ	宅地	台地	斜面	横穴墓	不詳		横穴4基、消滅
101	(木場遺跡8号横穴)	木場町		ゴルフ場	丘陵	斜面	横穴墓	不詳		横穴1基
102	津波倉ホットジ遺跡	津波倉町	ホットジ(法燈寺)	宅地	丘陵	斜面	横穴・地下式土坑	室町末期	陶磁器、瓦器	地下式坑6基、消滅。北陸大谷高地歴クラブ。1971宅地造成に係り、2基調査
103	下粟津B横穴群	下粟津町		社地	台地	台地	横穴墓	不詳		横穴2基、1960社殿改築で発見
	1号横穴	下粟津町		社地	台地	台地	横穴墓	不詳		消滅
	2号横穴	下粟津町		社地	台地	台地	横穴墓	不詳		消滅
104	下粟津A横穴群	下粟津町		運動場	台地	台地	横穴墓	不詳		消滅、横穴7~8基（能美郡誌)
105	波佐谷横穴群	波佐谷町		山林	丘陵	斜面	横穴墓	不詳		波佐谷城跡東郭から北に延びる尾根西斜面に地下式坑5基、横穴13基、6基開口。
106	こたい谷横穴	松岡町	コタイ谷	山林	丘陵	斜面	横穴墓	不詳		横穴1基
107	穴山横穴	池城町	穴山	山林	丘陵	斜面	横穴墓	不詳		横穴1基

第2表　中世墓及び横穴地名表

Ⅱ章　調査に至る経緯と経過

第1節　調査に至るまでの経緯

軽海横穴群の調査は、石川県小松土木事務所が実施する、主要地方金沢小松線の道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査である。

平成15年6月25日付けで、小松市軽海町地内に遺跡が存在することから、県教育委員会　文化財課に対し、発掘依頼が提出された。これを受けて、平成15年7月11日付けで、県教育委員会は小松市教育委員会に250㎡を対象に発掘調査依頼を提出した。これに対し、小松市教育委員会は、平成15年度に調査を実施する旨を県教育委員会に回答し、埋蔵文化財発掘調査を実施することに至った。

埋蔵文化財発掘調査は、平成15年10月1日から開始し、同年11月14日に終了した。

第２節　発掘調査の経過

平成15年

10月１日　作業開始。調査区の除草作業及び小枝の伐採作業。急斜面のため、道路側に落下防護フェンスを設ける。

10月２日　降雨により現場作業中止。器材運搬作業を行う。

10月３日～８日　調査区遺構精査。1、2号横穴検出。急斜面のため手すり付の階段、横穴に合わせて、転落防止用のステージ設置。

10月９日　１、２号横穴掘削開始。

10月10日～29日　１、２号横穴の掘削及び土層断面図、平面図作成。１、２号横穴は土坑状のものであることが判明。並行して横穴の北側斜面を直行する2本のトレンチを設け、断ち割り作業及び横穴下の流土除去作業を行う。流土内より、古式土師器片、磨製石斧発見。

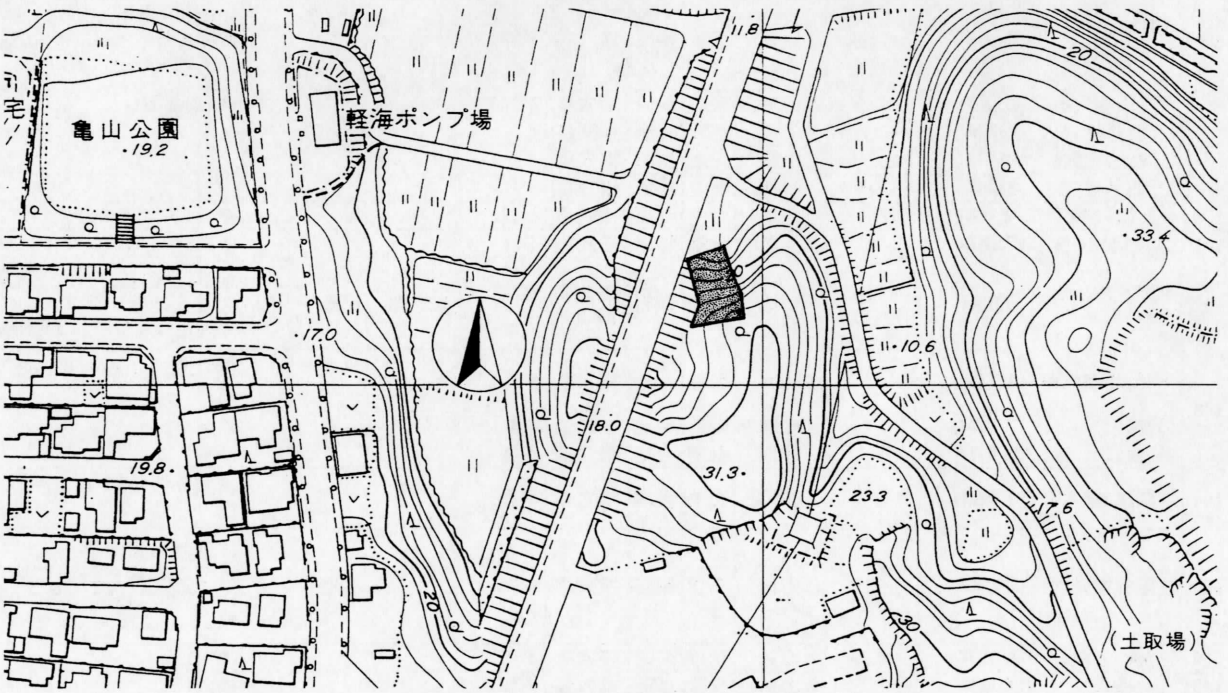
11月４日　空中撮影のため全体精査。

11月５日　空中撮影

11月６日～12日　調査区コンター図及び、１、２号横穴の平面及びエレベーション図作成。

11月13日　器材搬出作業。

11月14日　プレハブ（作業員休憩・器材小屋）撤去。現場での作業終了。



第５図　調査区の位置（S＝1/2,500）

第Ⅲ章　遺構と遺物

第１節　調査の概要

第６図は遺跡全体図である。調査区斜面上部から下部の比高差は15ｍに及び、発掘調査の際に自立するのも不便なほど急であった。斜面の裾は、加賀産業道路がある西側の方が高く、北東側に向かいやや低くなる。調査は、調査区全体に対し遺構精査を行ったが、確認されたのは２基の横穴（土坑状）のみである。２基の横穴（土坑状）は、斜面でも上部にあたり並立して存在する。その上には一部テラス面がみえたが、土坑ないしは横穴にはならず、ただのテラス面である。また、斜面に対し併行する土層断面図作成は調査状困難であり、斜面裾部に斜面に直行する形で、2本の土層断面を作成した。（第7図参照）。土層堆積は、30～40ｃｍ程度の厚みの表土が堆積しており、裾部には暗褐色を呈する流土層がみられるのみで、遺物包含層はみられない。１．２の遺物はともに流土からの出土である。

１号横穴は、直径約２ｍを測り不定形な形状をもち、深さは約１ｍである。一部東側に幅30ｃｍ×高さ１ｍ程度の穴が横に走るが動物によるかく乱と思われるもので、基本的には土坑状のものであり、底面は平坦ではなく凸凹である。堆積土は、流土以下６層まで分層されているが、基本的には、色調・地山ブロックの混入度合いでの差であり、すべてしまりのない自然埋没土である。遺物及びカーボンの出土はまったくみられなかった。

２号横穴は、長軸2.3ｍ×短軸1.3ｍを計る。いびつな形状をもち、南側に一部土坑状になる箇所がみられる。深さは、北側からなだらかに落ち、もっとも深い土坑状を呈する南側で約1.3ｍを測る。堆積土は覆土に流土が上面を覆う形であり、土坑状の覆土は１号横穴同様、人為的なものではなく自然埋没土である。遺物及びカーボンの出土はまったくみられなかった。

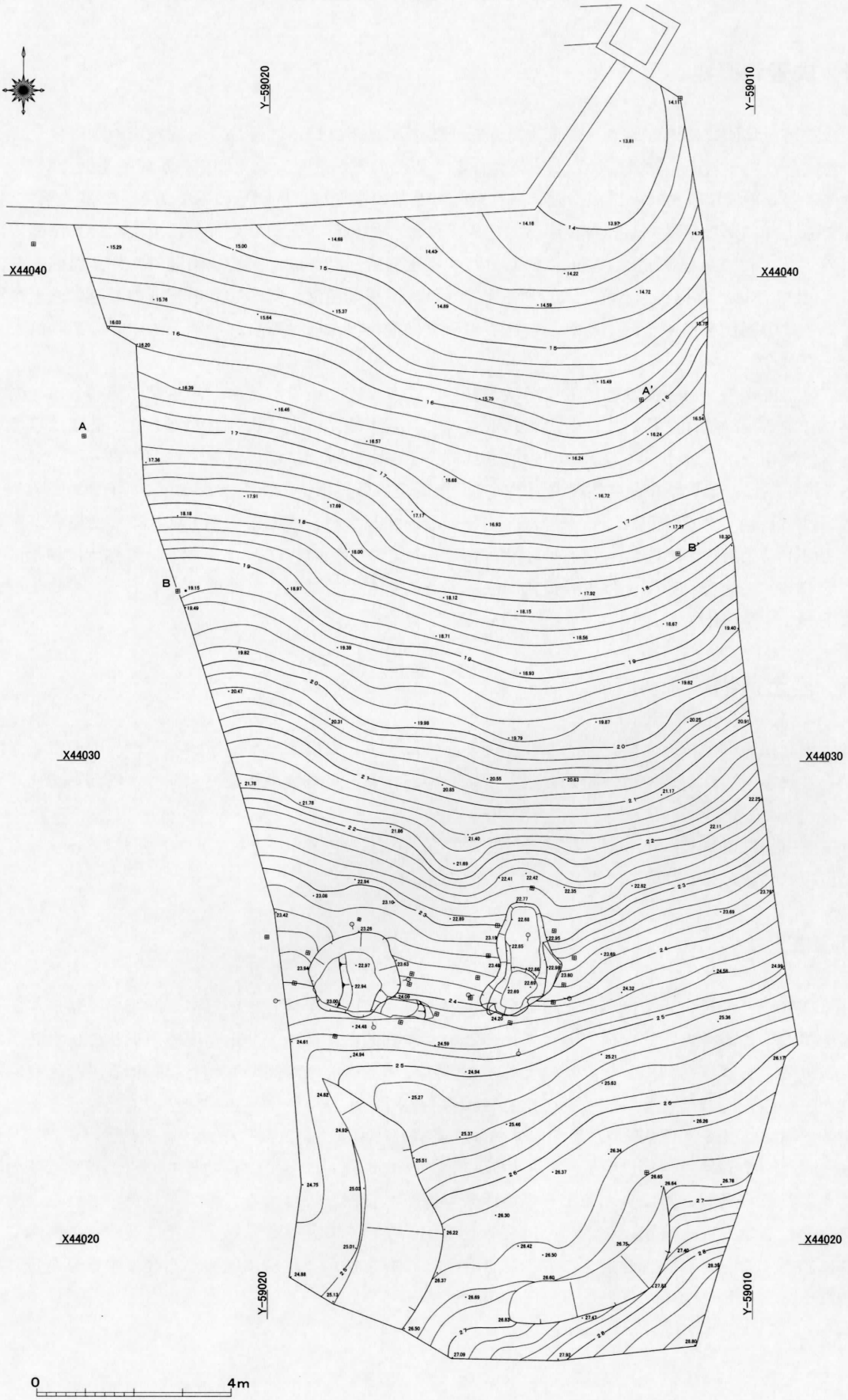
第２節　出土遺物

１．は壷または甕の上体部の破片と思われる。外面にはナナメ方向のハケ調整がみられ、内面は上方向のケズリ調整がみられる。これだけでは、時期の限定は難しいが、おそらく弥生後期終末期～古墳前期に比定するものと思われる。

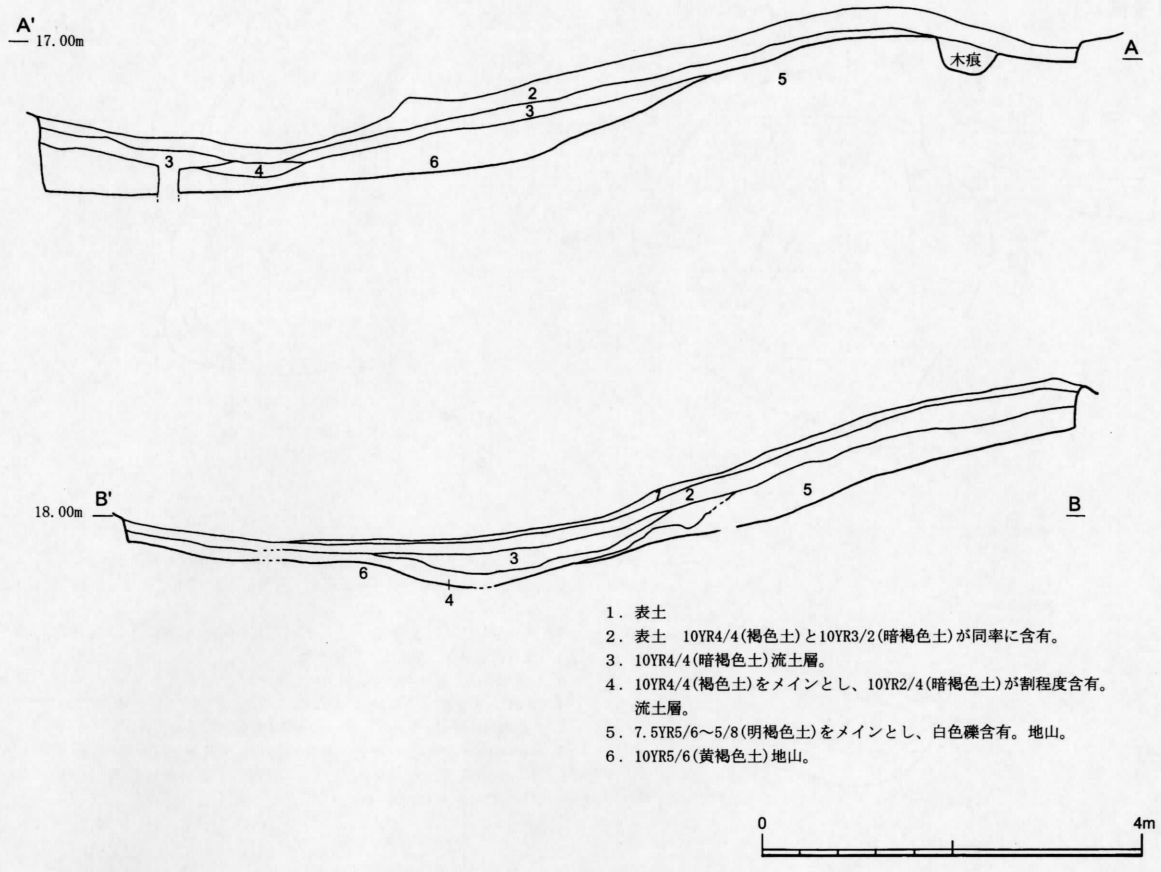
２．は磨製石斧（定角式石斧）で、基部側が欠失する。石材は蛇紋岩、長さ７ｃｍ・幅5.7ｃｍ・厚２ｃｍ（残存部）・重140.43ｇを測る。時期は縄文中期に比定するものであろう。

第３節　まとめ

１、２号横穴は、形状としては斜面に対しテラス状にきり、縦穴を呈しているが、底面が不整形であったり、人為的埋土でないため、人為的な横穴とは考えがたい。調査区内には１～２ｍ程度の円形状の抜痕跡がみられ、おそらく抜痕跡のくぼみを利用した動物によるかく乱穴である可能性が高いものと思われる。流土内には、遺物はみられたものの、石器は縄文時代中期に比定されるもので、土器は弥生～古墳前期の体部破片である。当調査区の北側低地部には軽海西芳寺遺跡が展開しており、遺跡の時期は、縄文時代中期・弥生時代終末期（月影式）・古墳前期・古代（７ｃ初頭～10世紀前半）・中世（14ｃ後半～15ｃ前半）に存続している。当調査区の流土から出土した土器片及び磨製石斧は、おおよそ軽海西芳寺遺跡と時期が符合するものであるが、これらの遺物は、斜面上部にみられる横穴（土坑状）のものとはまったく関係ないものと判断する。また、造成前の略図では、墓谷山の一部に該当するとも思われるが、この伝世自身も一つ谷を挟んだ尾根に展開する軽海中世墓を示しているものと思われる。



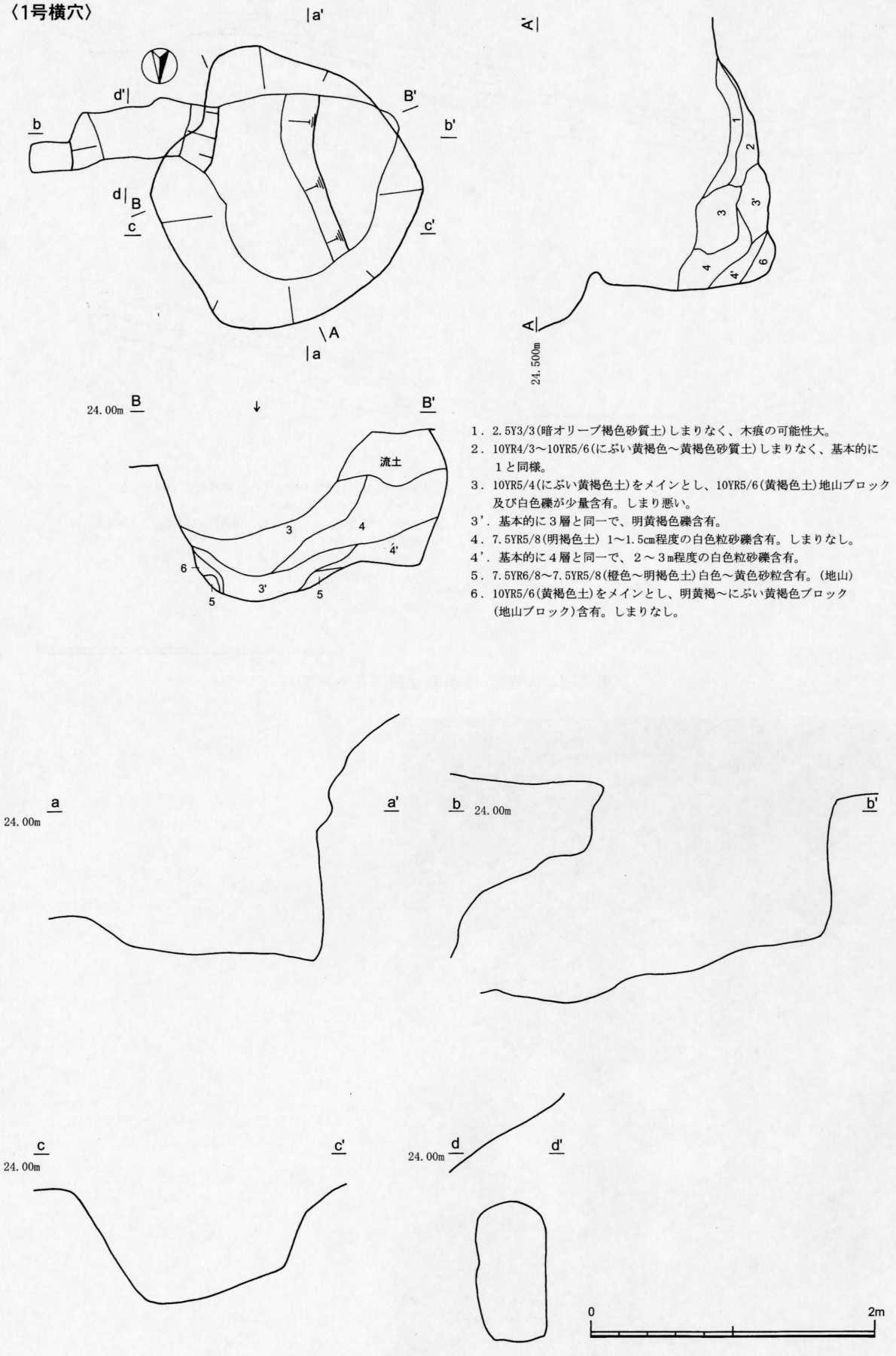
第6図　遺跡全体図(S=1/125)



第７図　調査区 土層断面図（Ｓ＝1/80）

作業風景

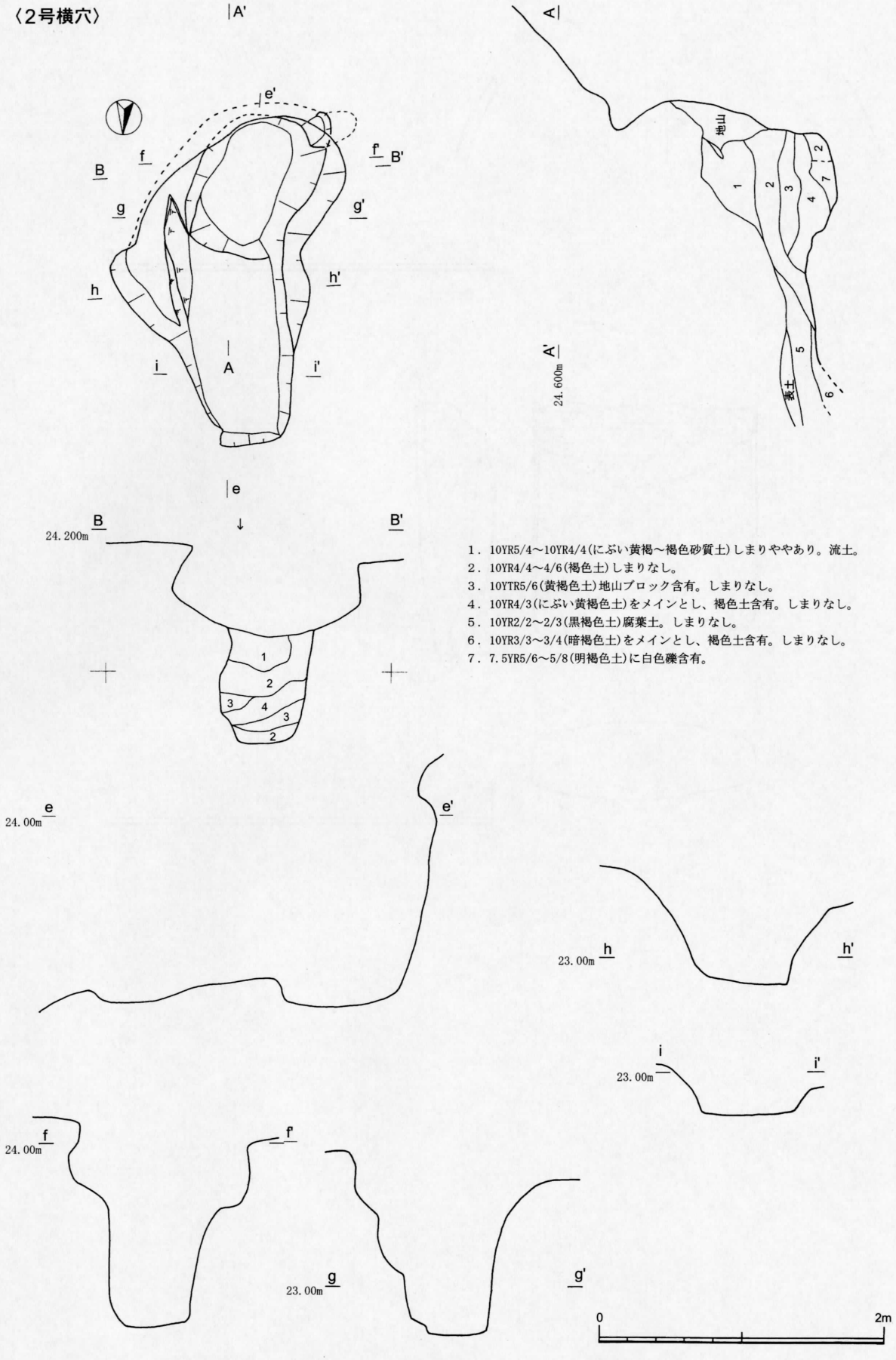
〈1号横穴〉



1．2.5Y3/3(暗オリーブ褐色砂質土)しまりなく、木痕の可能性大。
2．10YR4/3～10YR5/6(にぶい黄褐色～黄褐色砂質土)しまりなく、基本的に１と同様。
3．10YR5/4(にぶい黄褐色土)をメインとし、10YR5/6(黄褐色土)地山ブロック及び白色礫が少量含有。しまり悪い。
3'．基本的に３層と同一で、明黄褐色礫含有。
4．7.5YR5/8(明褐色土) 1～1.5cm程度の白色粒砂礫含有。しまりなし。
4'．基本的に４層と同一で、２～３m程度の白色粒砂礫含有。
5．7.5YR6/8～7.5YR5/8(橙色～明褐色土)白色～黄色砂粒含有。(地山)
6．10YR5/6(黄褐色土)をメインとし、明黄褐～にぶい黄褐色ブロック(地山ブロック)含有。しまりなし。

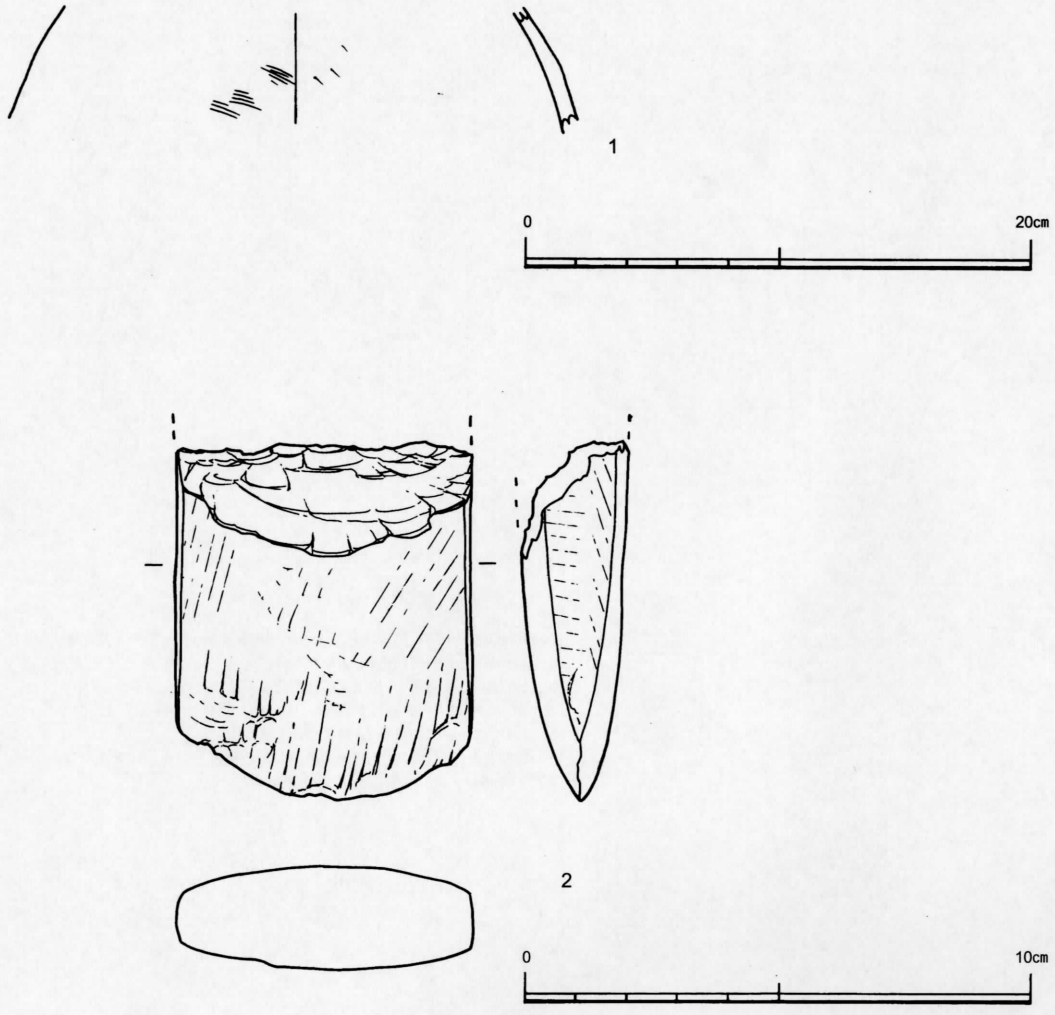
第８図　１号横穴 平面・断面・エレベーション図（S＝1/40）

〈2号横穴〉



1．10YR5/4～10YR4/4(にぶい黄褐～褐色砂質土)しまりややあり。流土。
2．10YR4/4～4/6(褐色土)しまりなし。
3．10YTR5/6(黄褐色土)地山ブロック含有。しまりなし。
4．10YR4/3(にぶい黄褐色土)をメインとし、褐色土含有。しまりなし。
5．10YR2/2～2/3(黒褐色土)腐葉土。しまりなし。
6．10YR3/3～3/4(暗褐色土)をメインとし、褐色土含有。しまりなし。
7．7.5YR5/6～5/8(明褐色土)に白色礫含有。

第９図　２号横穴 平面・断面・エレベーション図（S＝1/40）

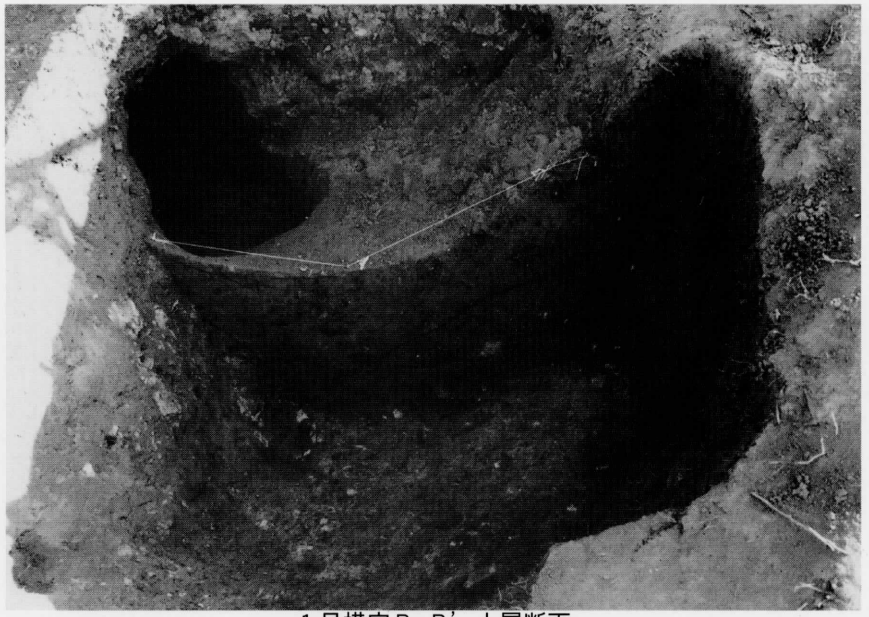


第10図　出土遺物（1：S＝1/3，2：S＝2/3）

遺跡全景（北北西から）

1．２号横穴完堀状況（北から）

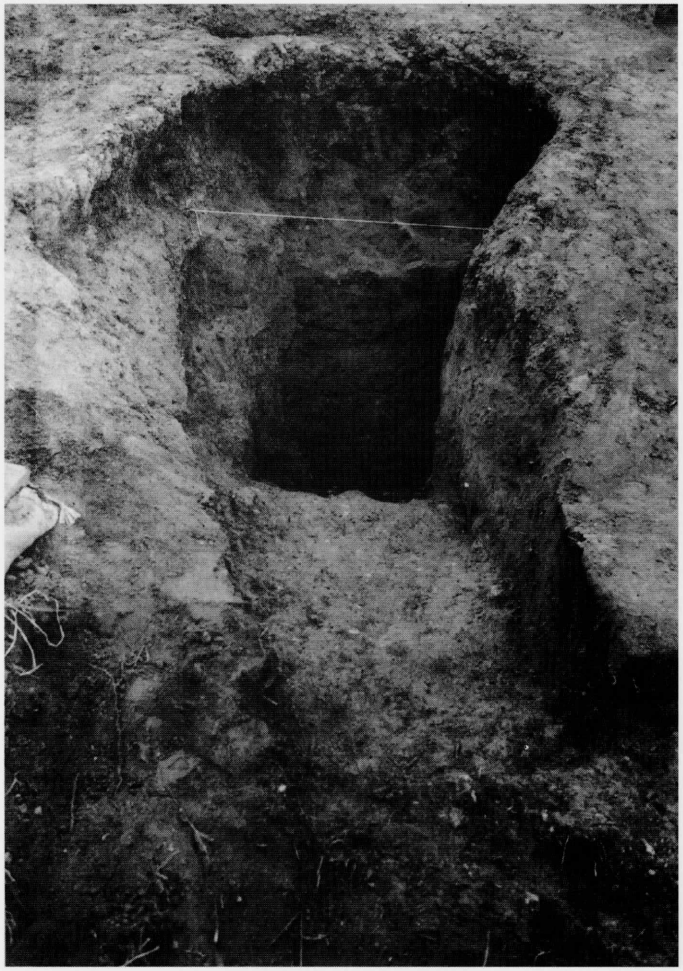
1号横穴完堀状況



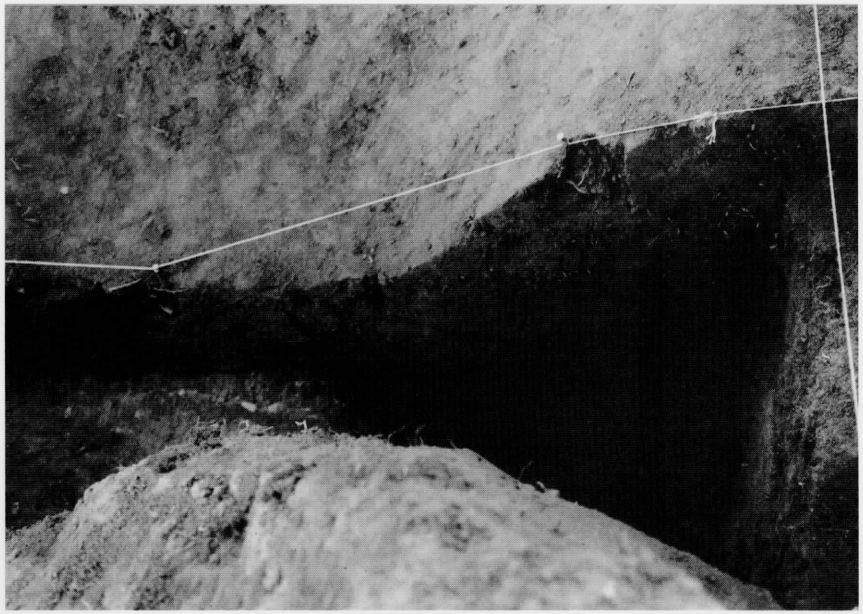
1号横穴B-B’土層断面

1号横穴A-A’土層断面1

1号横穴A-A’土層断面2

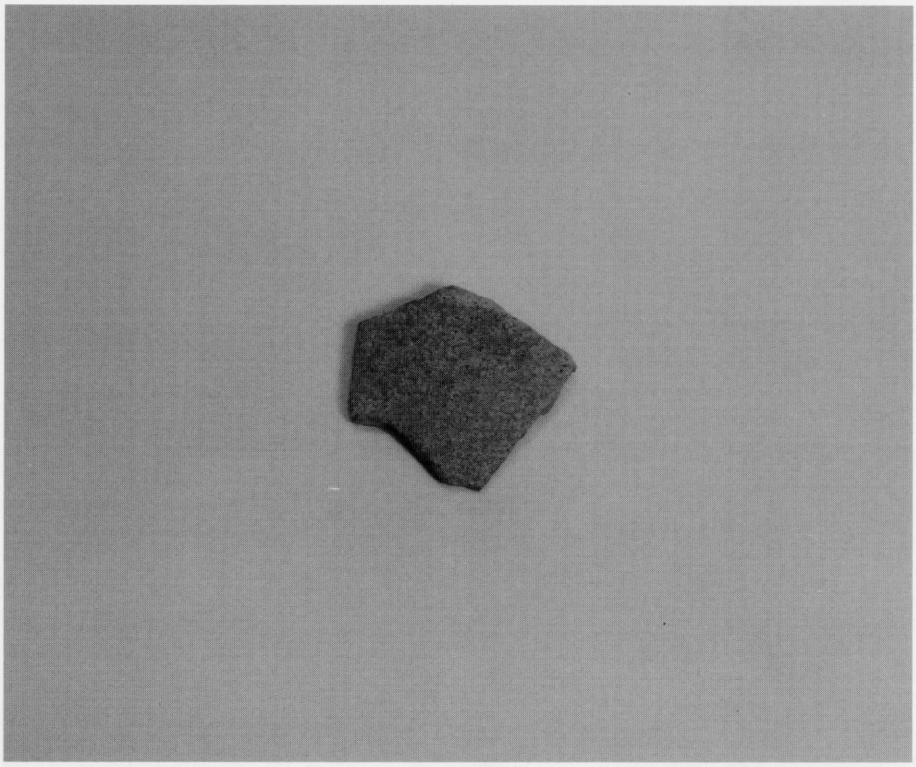


2号横穴B-B’ 土層断面

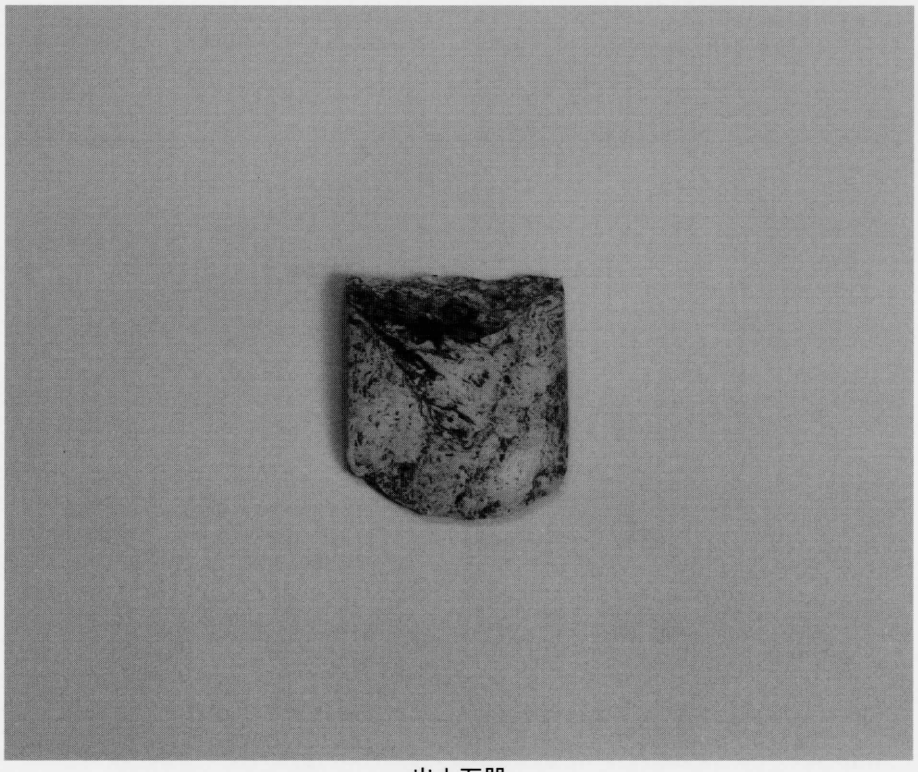


1号横穴A-A’
土層断面1

1号横穴A-A’
土層断面2



出土土器



出土石器

報告書抄録

ふりがな	かるみおうけつぐん
書名	軽海横穴群
副書名	主要地方道金沢小松線いしかわ広域交流幹線軸道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	下濱　貴子
編集機関	小松市教育委員会
所在地	〒923-8650　石川県小松市小馬出町91番地　　TEL (0761)22-4111
発行年月日	2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
かるみおうけつぐん 軽海横穴群	いしかわけんこまつし 石川県小松市 かるみまちちない 軽海町地内	17203		36° 23' 42	136° 30' 31	2003.10.01 ～ 2003.11.14	250㎡	道路 整備 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
軽海横穴群	散布地	縄文 弥生～ 古墳		磨製石斧 古式土師器	
		不明	土坑2基		かく乱穴

要約	横穴群の埋蔵文化財発掘調査として実施したが、結果、中世横穴ではなく土坑状のものであった。

2005年３月25日　印刷
2005年３月31日　発行

軽海横穴群

－主要地方道金沢小松線いしかわ広域交流幹線軸道路整備工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書－

編集・発行　石川県小松市教育委員会
〒923-8650　石川県小松市小馬出町91
電話(0761)２２-４１１１

印　　刷　㈲アート印刷
〒923-0036　石川県小松市平面町イ14-8
電話(0761)２３-１４８２